

好中球が関与する皮膚病

編集担当 山本 俊幸

動画 Editor's eye
を始めました。

下記よりアクセスください。

<https://vimeo.com/529260257>



今月号は、抗TNF製剤が最近本邦において保険適用となった2つの疾患、化膿性汗腺炎と壊疽性膿皮症に焦点をあて「展望」や「Topics」「統計」で、その病態、遺伝的素因、併存症、QOLなどの側面から執筆いただいた。

また、周辺疾患も取り上げている。これだけ集中的に論文を読むと、好中球性皮膚症の最近の考え方や病態の理解が深まると思われる。化膿性汗腺炎は昔からよくみる疾患で、本邦では臀部慢性膿皮症と呼ばれていたが、瘻孔や瘢痕形成が進むと(Hurley stage 3)、よい治療がなく難渋した。抗TNF製剤をうまく取り入れた治療の工夫が期待される。化膿性汗腺炎に近い疾患に、毛包閉塞性疾患のtriad(hidradenitis suppurativa, acne conglobata, dissecting cellulitis of the scalp)やtetrad(triadにpilonidal sinusが加わったもの)があり、これらの病態やTNF阻害剤に対する効果も知りたいところである。化膿性汗腺炎の病態は乾癬に似ていると最近の論文に書かれているが、実際に乾癬と化膿性汗腺炎を併発している患者をみることは(少なくとも本邦においては)少ない。

臨床例は、好中球性皮膚症を中心に、興味深い症例を多数執筆いただいた。まれな合併症(貧血、腎障害)、さまざまな疾患(再発性多発軟骨炎, pyodermatitis pyostomatitis vegetans, septic vasculitis, 薬剤性壊疽性膿皮症, SLEに伴う好中球性皮膚症, necrotizing infundibular crystalline folliculitis)が並んでいる。Necrotizing infundibular crystalline folliculitisは初めて聞く名前であり、たいへん勉強になった。妊娠後期になると血中のG-CSFをはじめとする好中球走化因子が上昇するため、疱疹状膿痂疹、帝王切開後の壊疽性膿皮症がみられると理解していたが、Sweet病では妊娠初期から中期にかけて発症することが多いようである。また、掌蹠膿疱症と膿疱性乾癬の移行例、壊疽性膿皮症と化膿性汗腺炎の合併例についてもいろいろな考えがあるだろう。論文を読んで感じたこと、疑問に思ったことはぜひ「声」の欄に投稿していただきたい。